

第1章 平成14年度の研究について

浜田 貴宏

1 研究テーマ

友達とかかわり合いながら創る生活プランの作成

2 テーマ設定の理由

・これまでの研究から

私達は「一人一人の幼児が自分なりの力を発揮し、友達とかかわり合いながら生きる力をやしなう」ことを教育目標に掲げ、「・いきいきとあかるいこども ・よくみ、よく考えるこども ・自分からすすんでものごとをすることも ・豊かな美しい心をもつこども ・友だちとなかよく遊ぶこども」を目指すこども像として日々幼児教育に励んでいる。この目標を目指すとき、幼児らが幼稚園という環境の中に身を置き、他（人、もの、文化）とのかかわりの中で関係を構築し、自分づくりをしていくプロセスを保障していくことが大切であるということ、これまでの研究の積み重ねの中で共通理解してきた。そして、園内で出会う他者とかかわりに着目し、そこに力点を置いて幼児らにかかわっていくことは、実は、他者から広がる、ものや文化との出会いを保障しているということに気づいてきた（昨年度紀要P10～P69参照）。

また、一昨年度の事例検討から、研究テーマを目指すときに、各学年の育ちを考慮したスローガン

- ・ 3歳児・・・友達とかかわり合いながら自分が創る自分の生活
- ・ 4歳児・・・友達とかかわり合いながら自分が創る自分達の生活
- ・ 5歳児・・・友達とかかわり合いながら自分達が創る自分達の生活

を設け、このスローガンを念頭におきながら保育を展開してきた。その中で、このスローガンの妥当性と重要性を感じてきた。

このような中、昨年度は研究のサブテーマに「幼児の実態に即した指導計画の再編成」を掲げた。これまでの、個の育ちを大切に作成された指導計画をもとにしながら、今の私達の状況と意識に応じたものに改善していきたいという願いが強くなってきたからである。もう少し詳しくいうならば、キャンパスの移転による、環境の大きな変化や、私達の保育に対する意識の変容、とりわけ、個と集をどう捉え、幼児の自発的な活動と、教師の意図的な活動を保育の中にどう位置づけ、保育の展開に結び付けていくか、ということを目指し、指導計画に明記したいと考えたからである。

そこで、今年度は「友達とかかわり合いながら創る生活プランの作成」という研究テーマを掲げ、研究を進めることにした。

3 研究の目的

- ・友達とかかわり合いながら創る生活プランを作成する
- ・昨年度はっきりした11の視点（昨年度紀要参照）の関連性について検討する

4 研究の方法

- ・昨年度作成の「月の指導のまとめ」を全員の目で検討し、共通理解を図りながら、友達とかかわり合いながら創る生活プランの作成につなげる
- ・各学年、スローガンに照らし合わせながら、1つないし2つに視点を絞って事例を収集し、全員参加の研究会で検討する

5 研究の全体構想

